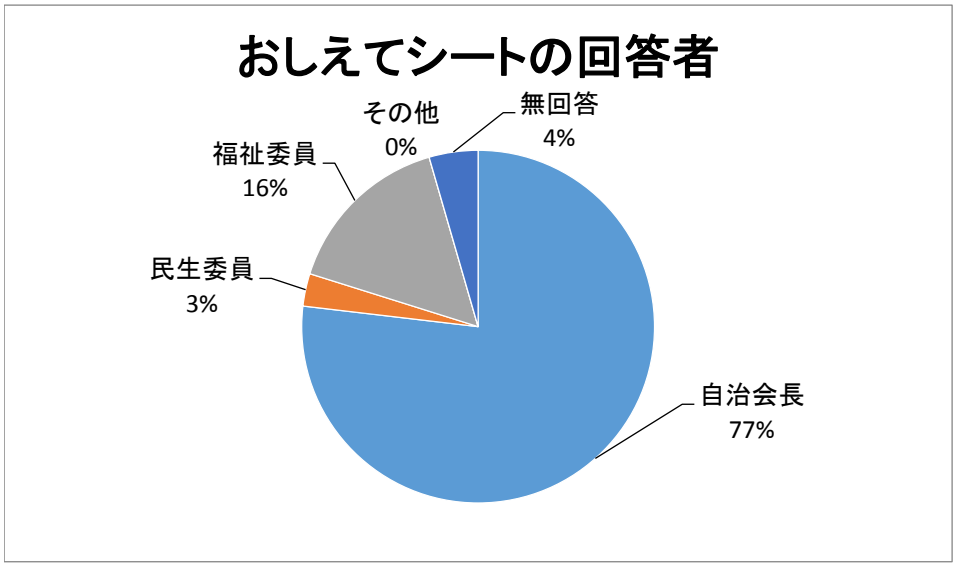
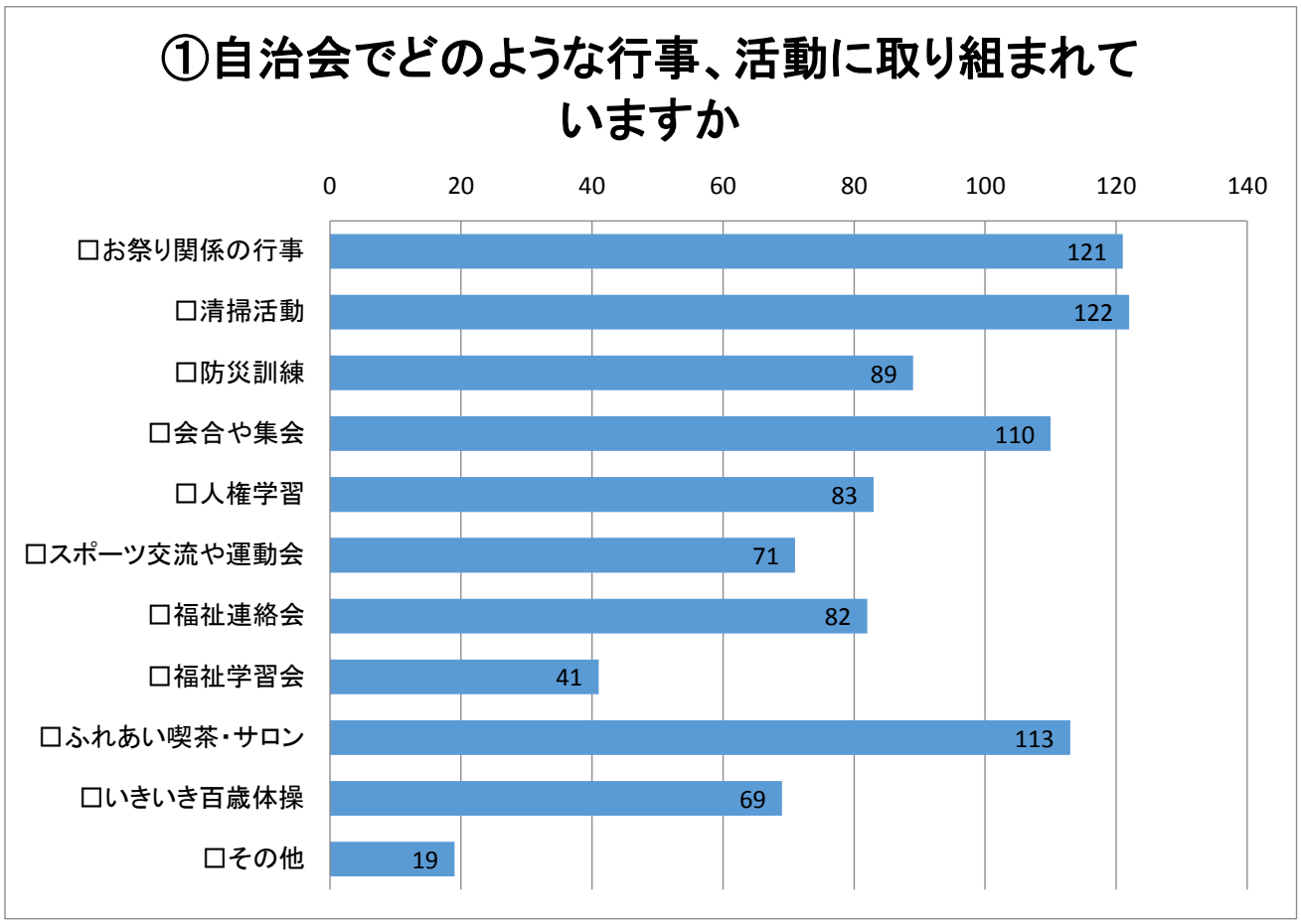
宍粟市社会福祉協議会作成

『 おしえてシート 』(宍粟市全体の集計)
～ 地域の取り組みを教えてください ～

回収率　80.8%　　156自治会中 126自治会



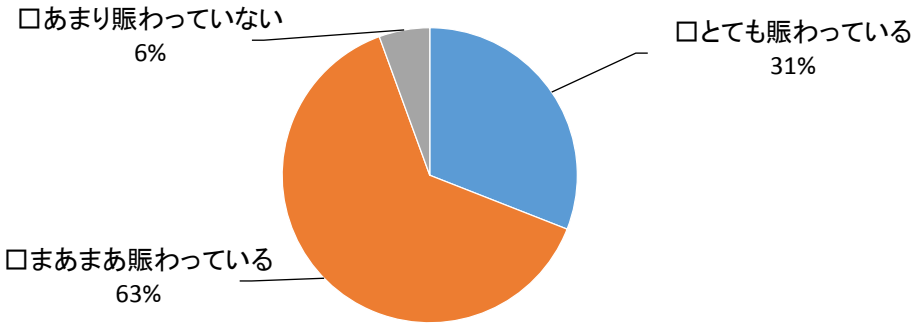
出ごとについてお伺いします



≪ 分析・解説 ≫

解説：自治会全体の50%強は7つ以上の行事に取り組まれている。地域には出事が多くあることが分かる。
多い行事は清掃活動、お祭り関係で、ついでふれあい喫茶・サロンも多く回答された。
元々からの行事に加えふれあい活動や交流行事が増えて、定着してきていることが分かる。

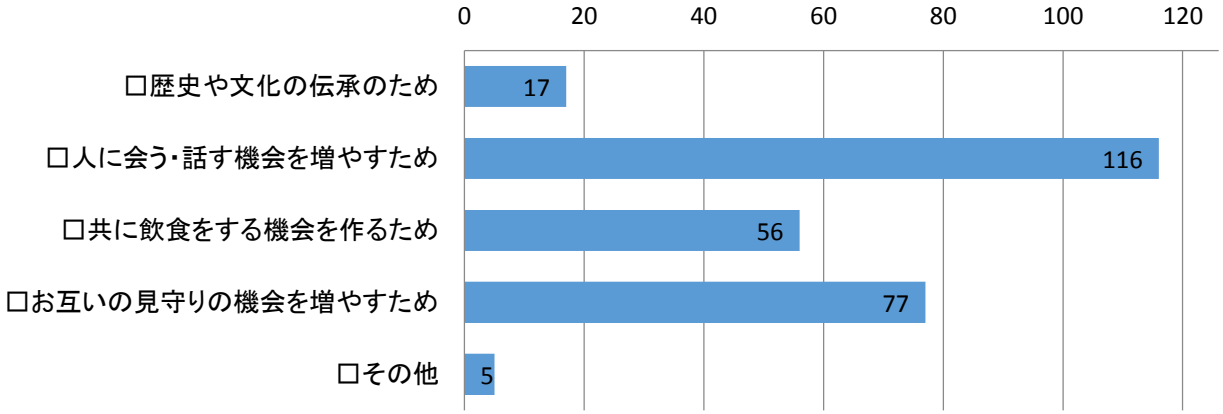
②祭り、行事、ふれあい喫茶・サロン等(つどいの場)の状況を教えてください



≪ 分析・解説 ≫

解説：全体の90%は「賑わっている」との認識がある。「賑わっていない」（6%）の回答理由に「内容がマンネリ化」「参加者が少ない」が挙げられた。
課題：「賑わっていない」と感じる理由について、長く続けているからこそ出てくる課題であり、マンネリ化や参加が少ないことが悪いのではなく、その集いの場の役割や今後のあり方（目的）、内容の工夫などについて話し合う機会を持つことが必要です。

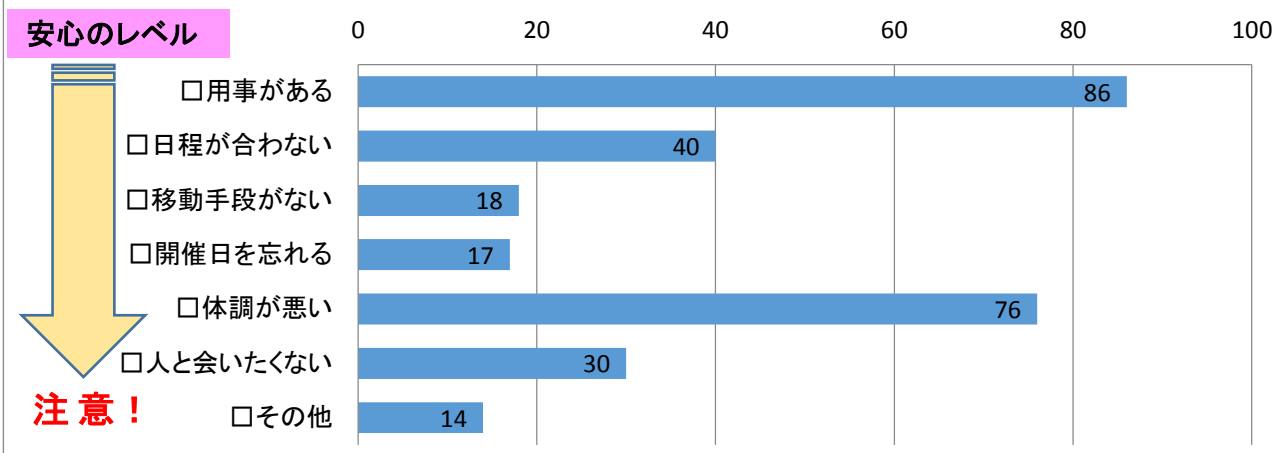
③つどいの場を取組むとき意識していることは何ですか



≪ 分析・解説 ≫

解説：つどいの場は人が集まることで、その場で安否確認を重視して取り組まれている自治会が多いことが分かる。②で『とても賑わっている』と回答した中で、意識していることは、やはり一番に「人に会って話す機会を増やす」が多く、住民同士がつながる機会の大切さから、つどいの場の継続にもつながっていると考えられる。

④つどいの場に参加しない人の理由は、どんなことが考えられますか

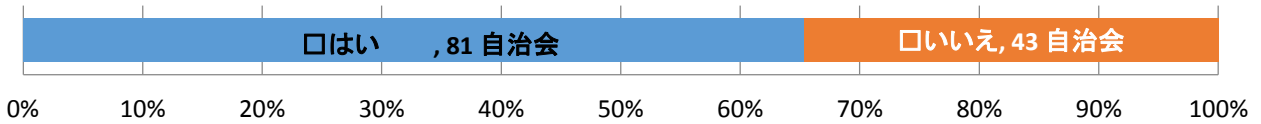


≪ 分析・解説 ≫

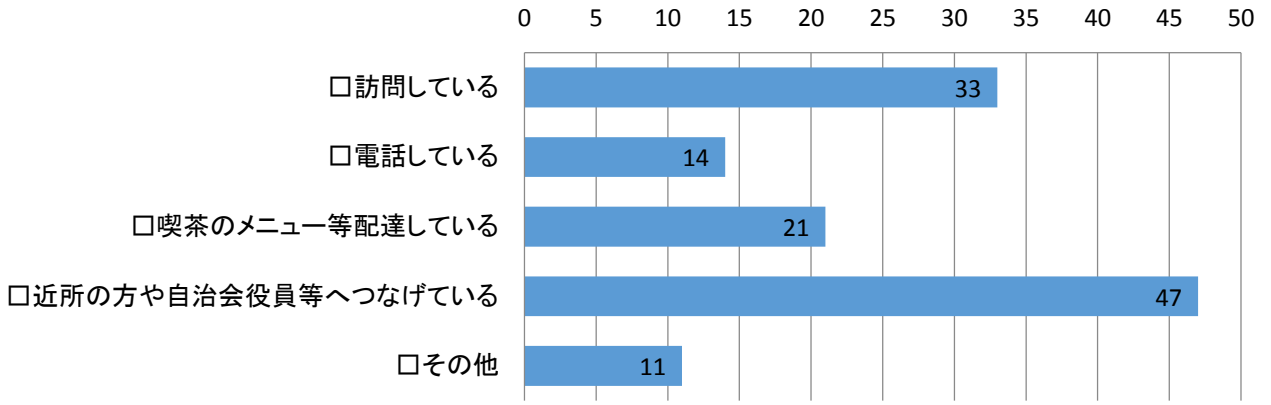
解説：「つどいの場に参加しない」理由については、そのほとんどを把握されていることが分かる。
課題：少数ではあるが「移動手段がない」「開催日を忘れる」については、地域での声かけ等の対応で改善される可能性があると考えられるが、「人と会いたくない」の23%について、例えばコミュニケーションが苦手で集まりの場に出たくないのであれば、今後地域とのつながりが益々薄くなり孤立する可能性が考えられる。
まずは、つどいの場へ出てこられない方について、自治会内で理由を確認（把握）し今後の対応について話し合う機会を持つことが大切です。その後、どのように見守りを行うか、専門機関へつなげるか等、孤立させないために、何らかの対策が必要となってきます。

⑤参加しない人、気になる人への対応をしていますか

無回答：2



⇒「はい」の場合、参加しない方へ具体的にどのような対応をしていますか

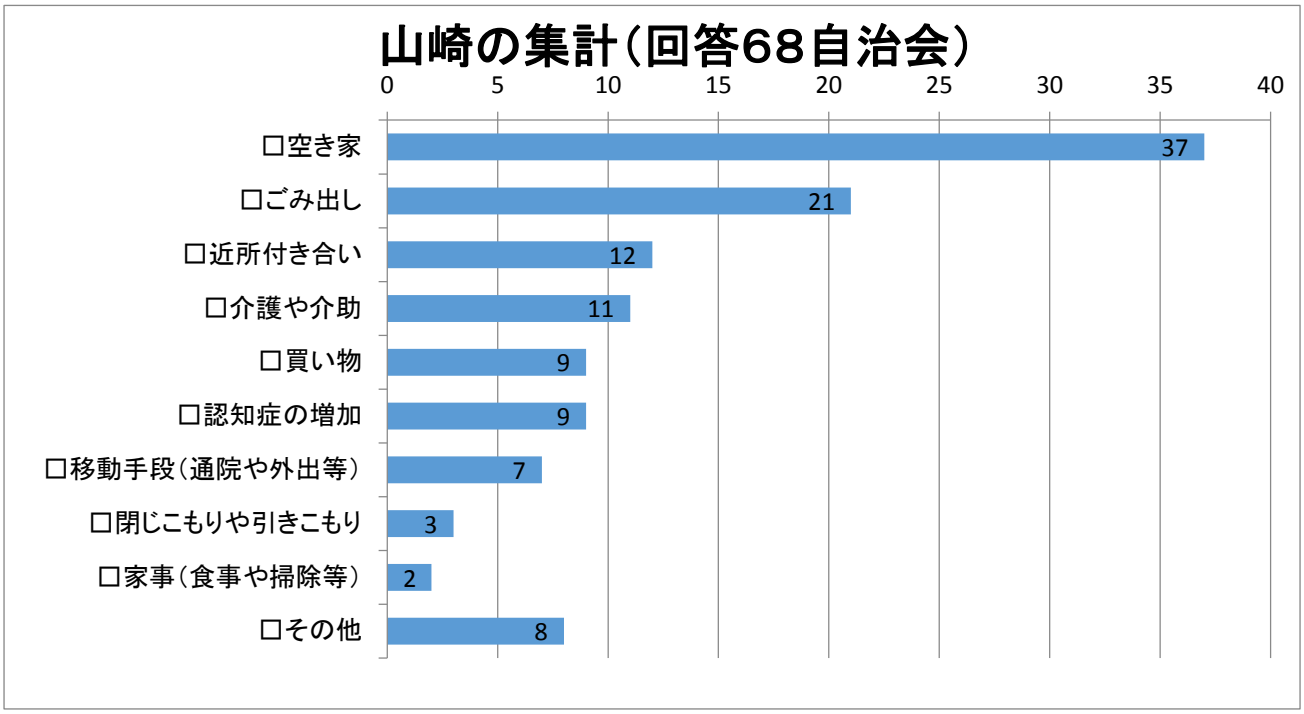


≪ 分析・解説 ≫

解説：つどいの場へ参加されない方について、65%の自治会が「近所の方や自治会役員等へつなげる」「訪問している」など対応されていることが分かる。反対に対応していない35%の自治会の内、半数は「今後考えている」「考えているがどうすればいいか分からない」など必要性は感じていることが分かる。
課題：気になる方については、自治会内の話し合いの場、今ある役員会や各種会議、福祉連絡会や見守り会議で検討が必要です。いつも参加される方が来られない等、気になった時はその場で電話で確認したり、全く参加されない方にもお誘いの声掛け訪問をしたり常に気に掛ける「ほっとかない」姿勢が大切です。

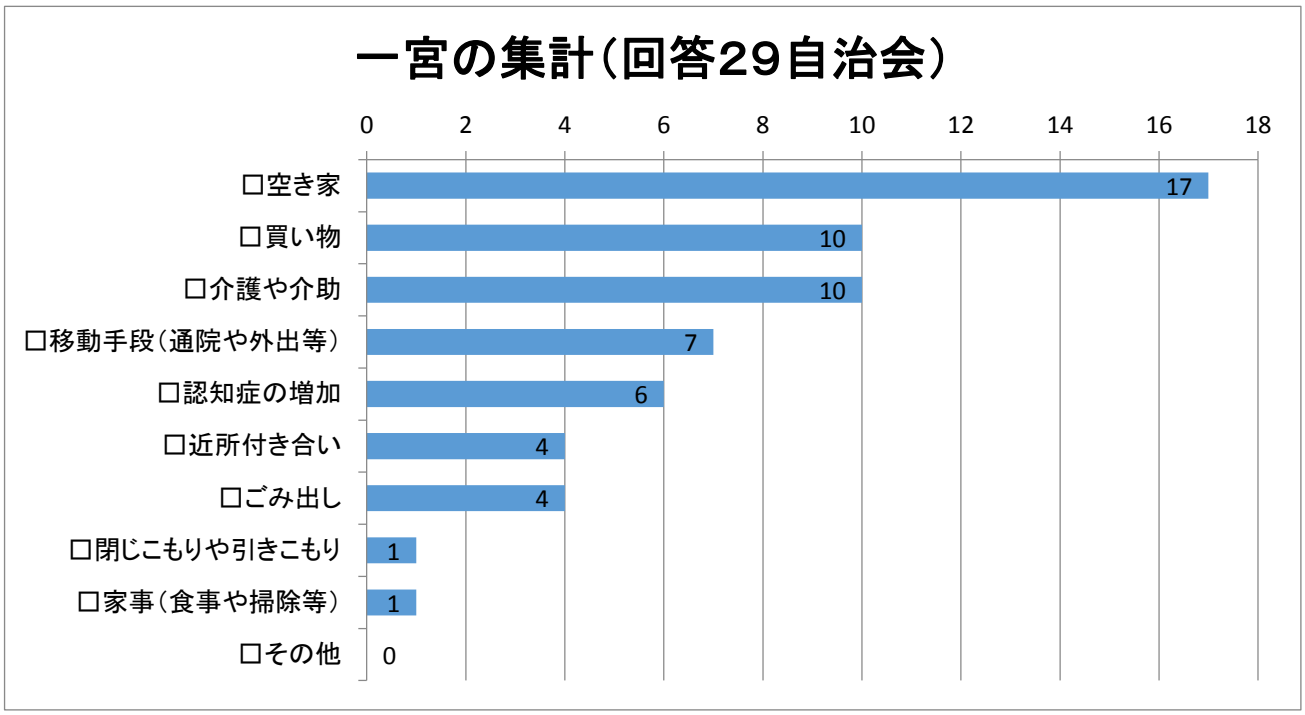
困りごとについてお伺いします

⑥生活の中の困りごと、問題となっていることは何ですか（各町ごと）



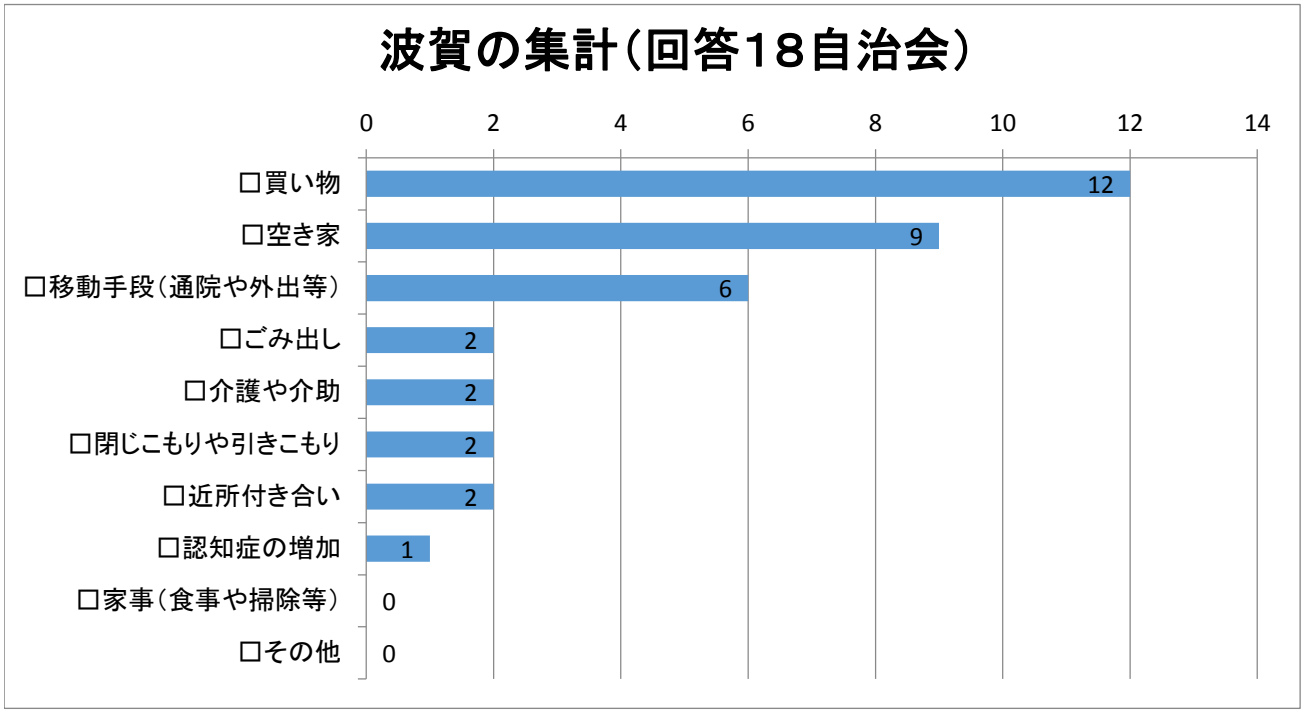
≪ 分析・解説 ≫

解説：山崎では「空き家」問題が半数以上の自治会から挙がった。またH30.4月から開始された資源ごみ分別回収、ごみステーション設置場所の減少等の問題から「ごみ出し」の回答が多くあった。
課題：山崎においては、中心部と山間部で地域格差があり、回答割合からだけで判断できない「買い物」「移動手段」など、困りごとの優先度は地区によって違うので、自治会や地区で対応を考える必要がある。



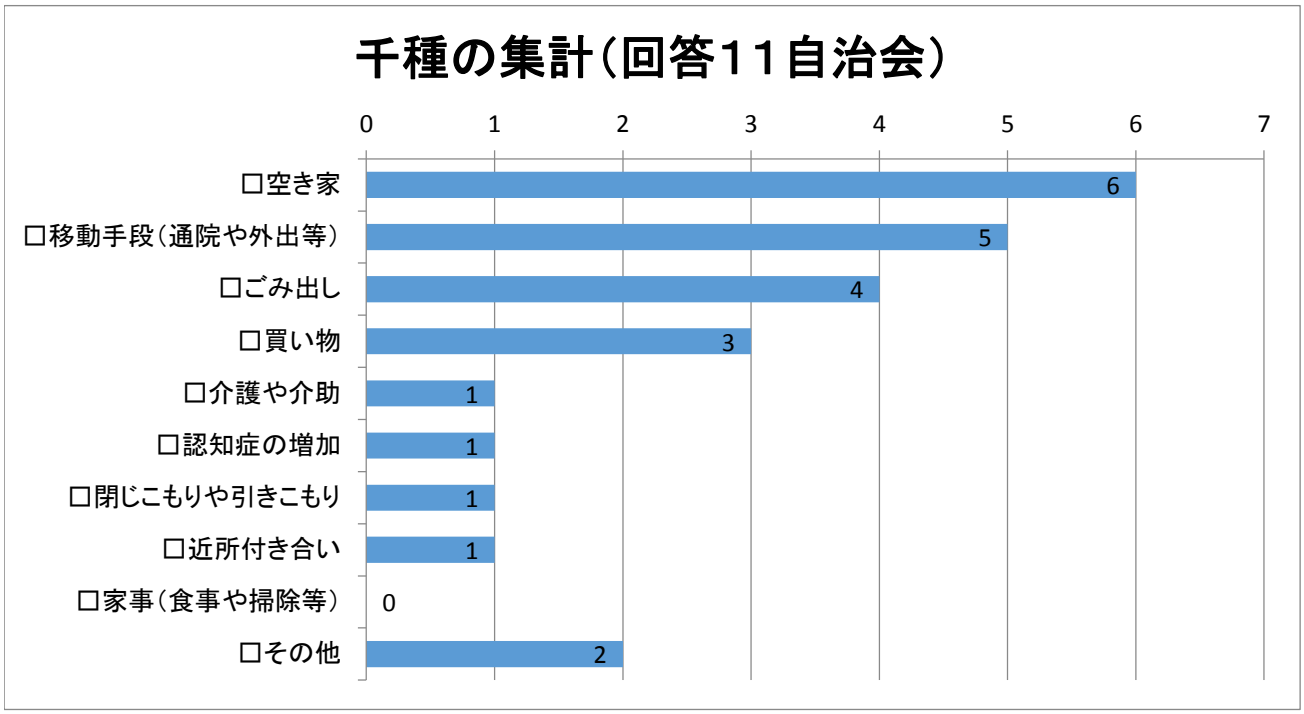
≪ 分析・解説 ≫

解説：一宮は一番に「空き家」。次いで「買い物」「介護や介助」が挙がった。
人口流出による空き家対策の問題、また一部地域の商店の閉店に伴い買い物の場がなく生活問題となっていることが分かる。また、介護者の高齢化に伴い介護が生活の中で問題となっていることが伺える。



≪ 分析・解説 ≫

解説：波賀は南部地域とは違って、一番に挙げられたのが「買い物」。次いで「空き家」「移動手段」が多く挙げられた。中心地の商店が無くなったことでとても不便と感じていることが分かる。「空き家」については人口流出による人口減等による「空き家」の増加が問題視されていることが分かる。

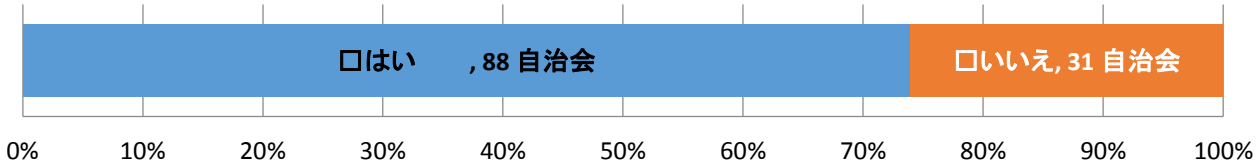


≪ 分析・解説 ≫

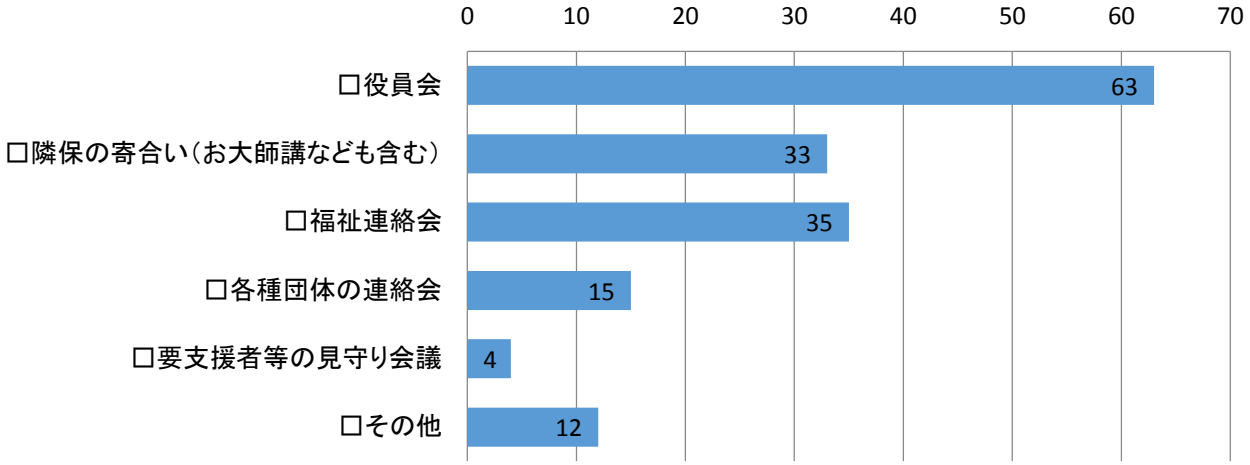
解説：千種については一番に「空き家」、次いで「移動手段」が挙げられた。
買い物については4番目に挙げられた。千種商店街が機能していることが伺える。

⑦困っている人、支援が必要な人の困りごとを相談、話し合う機会がありますか

無回答：8



⇒「はい」の場合、どのような場で困りごとを相談していますか



≪ 分析・解説 ≫

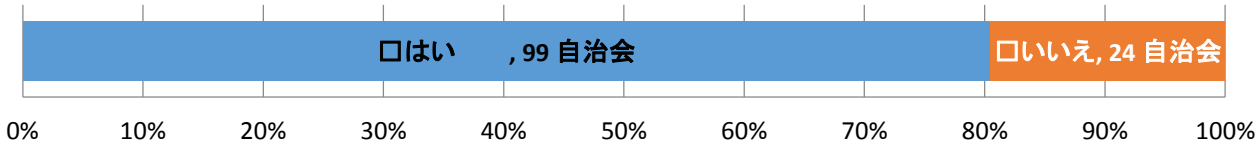
解説：自治会の約70%が困りごとを話し合う場があると回答。⑥の問題となることについて、その話し合いの場は「役員会」が多く約60%、次に「福祉連絡会」や「隣保の寄合い」などが挙げられた。
また、「その他」の回答にふれあい喫茶・サロン、百歳体操等のつどいの場での相談を挙げられている自治会もあり、つどいの場が相談の場にもなっていることが伺えた。

課題：話し合いの場で出た課題を解決や支援にどうつなげるか、自治会内で仕組み作りが必要となってきます。
地域でできること、他機関につなぐことなどを話し合いながら、近所付き合いの中でちょっとしたお手伝いがし合える関係が、地域の助け合い活動につながります。
また、話し合う機会がないとの回答が約25%ありましたが、既存の役員会などの中で「気になる事（人）」について少し時間を取って情報共有したり、民生委員と情報交換することも有効と考えます。

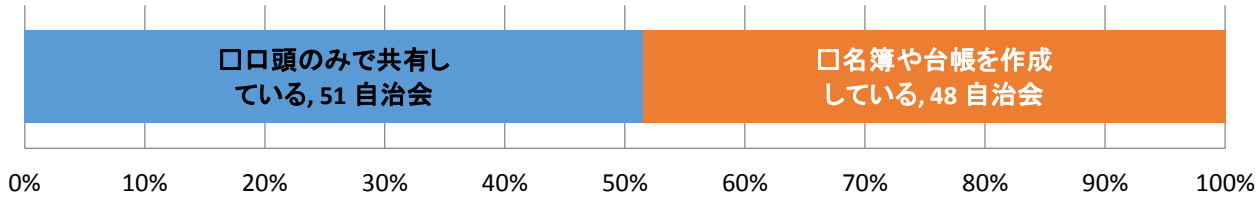
情報共有の取り組みについてお伺いします

⑧見守りが必要な方(一人暮らし高齢者、要介護者、介助者等)の情報はありますか

無回答:4



⇒「はい」の場合、どのように見守りが必要な方の情報共有をしていますか



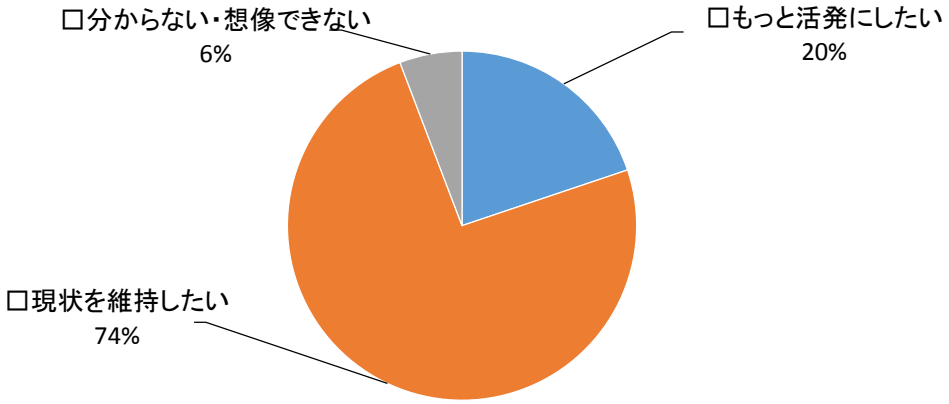
≪ 分析・解説 ≫

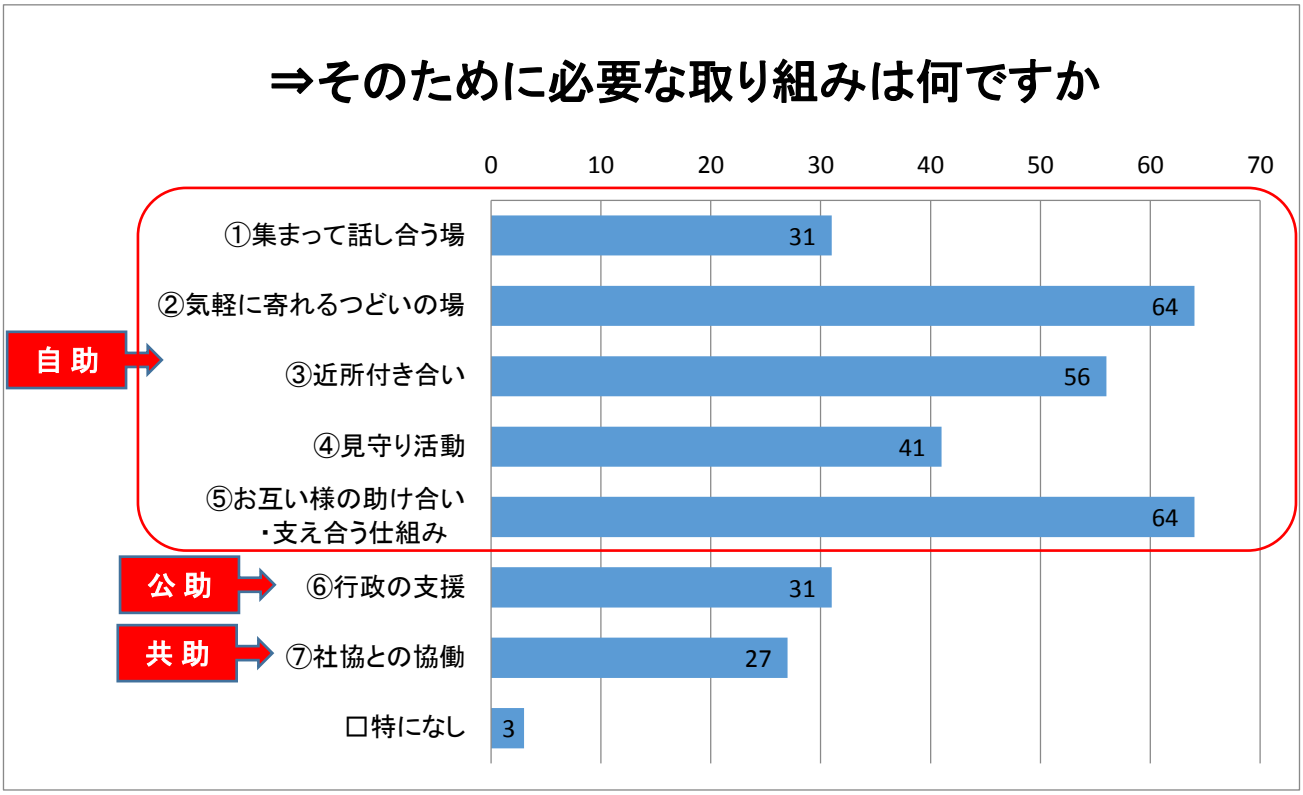
解説:見守りが必要な方の情報について、把握されている自治会は約80%で、その共有方法については、口頭のみと台帳等作成とが半々の回答。台帳などの保管については主に自治会長、民委委員が多かった。

課題:まず情報については、特に有事の時には口頭のみの情報共有では対応が難しいので、個人情報保護の配慮をしながら、要援護者の情報は台帳や福祉マップなど「見える化」しておく必要があると思われます。
特に「情報がない」約20%の自治会では、今後有事の際や緊急時に備え準備検討が必要と思われます。

今後の活動についてお伺いします

⑨現在の行事や取り組みを、どのようにしていきたいですか





≪ 分析・解説 ≫

解説：今後の自治会活動について、全体の74%強が「現状維持」との回答。今、行っている行事は継続していきたい、という思いがあることが伺える。
継続していくために必要なことは、住民同士のつながりづくりに大切な②気軽につどえる場、普段の生活の中での④見守り活動を通して、気づいたことや困りごとを①話し合う場、そしてお互い様の気持ちで⑤助け合える関係（③近所付き合い）や仕組みに対する回答が多く、まず自分たちで出来ること「自助」の意識が強くあることが伺える。

課題：地域の「自助」のみではなく「公助」や社協以外にも専門機関や地域外部からの力、社会資源などの「共助」がバランスよく連携することが必要である。そのバランスは地域によって違うので、みんなでいっしょになって“元気な地域づくり”について考える協議の場が必要になります。

≪ 総評・見えてきたこと ≫

総評：宍粟市は、北部域の中山間地と南部域の中心地で地域の状況も違い抱えている生活課題や対策が急がれ内容にも差はあるが、自治会において様々な行事や取り組みなど話し合いや集いの場が多くあることが分かりました。また、人口減少から山崎の一部を除く市内全域で空き家が増えていることや、高齢化による担い手不足等、共通の課題を抱えながらも今ある行事は継続していきたい、という回答が多く、さらに全体の20%は今ある行事や活動等を「もっと活発にしたい」と、地域を元気にしたいという意識が高いことが分かりました。
具体的な意見としては「宍粟市出身で都会に出て生活している若者とふれあう場を設けたい」「元気な高齢者のパワーを活用したことを行いたい」等、自治会を活性化させたい前向きな意見がありました。
自分たちに出来ることを続ける、出来ることから始めていこうという前向きな意識と、地域行事や近所付き合いなど、これまで当たり前だったことが持つ意味やその役割・必要性について、再認識し継続・継承していく努力をされていることが見えてきました。その「自助」の力に加え、これからはさらに自治会の外部の「公助」「共助」（行政や社協など）の力を上手に活用し協働することで、だれもが安心して暮らし続けれる地域（まち）につながると確信しています。

【 その他 】 ※自由記述

設問①（自治会内の行事、事業について）

・隣保ごとの寄合い、行事

・ひとり暮らし高齢者のつどい

・健康体操

・各組（隣保）持ち寄り会食交流会

設問④（つどいの場に参加されない方の理由について）

・参加意識が少ない

・高齢者のみ世帯の増加

設問⑤（参加されない方など気になる方への対応について）

・反省会で次回の改善を検討

・民生委員、福祉委員が訪ねる

・家族が近くにおられない場合は近所の声掛けが重要と思う

設問⑥（困りごとについて）

・廃品回収業者の廃品が溢れていて、地域住民が大変迷惑している。
山林内での不法投棄・焼却・火災が有る。

・高齢者のみ世帯の増加

・景観を損なう建物の増加

設問⑦（支援が必要な方への相談場所について）

・ふれあい喫茶やいきいき百歳体操の時

・隣接、近隣住民

・本人宅を訪問し面談（まずは話を聞く）

・NPO法人の運営会議

・ふれあい喫茶の反省会

・自主防災会で要援護者台帳作成時に訪問

設問⑧（名簿や台帳に管理者について）

・隣保長

設問⑨（今後の活動について）

・自治会に公民館がないので、ふれあい活動や気軽に集まることができない

・市役所、社協、民生委員、自治会の役割分担が不明。漠然とした要求のみで対応が難しい

・自治会にどこまで何を求めているのか不明

・ふれあい喫茶の参加者が少なくなった（高齢化のためか…）何か良い対策はないか。
見えてこない

・見守り気づき「まま」チェックシートの内容を多くの人に広めて、大勢の目で見守って行きたい

・新築される若い家族も自治会の行事にどしどし参加してもらいたいのですが・・・

・名簿で家族構成は把握しているが、要介護や介助の様子については十分把握できていない。個人情報の問題はあるが、近所付き合い等で人間関係を深め、気兼ねなく相談（情報交換）できるようにしたいがその具体的な方法が分からない

・地元のNPO法人ひまわりの家と協働して活性化を行う。要援護者を自治会任せにせず、行政がもっと積極的に関わってもらいたい

・自治会内での人権学習

・元気な老人パワーの活用

【 その他 】 ※自由記述

設問⑨（今後の活動について）

・年2、3回行っている各種団体会議に福祉連絡会（地域見守り会議）を取り入れるかを検討

・人づくり、町づくり、健康づくり

・地域で助け合う、支え合う仕組みの構築

・今後、さらに高齢化率が進み、祭りや会合もじり貧になっていく見通しです。近所付き合い、支え合い、助け合いが一層、深く感じられます

・出前講座を活用して、災害時の助け合い、介護サービスの上手な利用の仕方等を研修会として実施したい

・いつでも誰でも立ち寄れるコミュニティハウスを空き家を利用して作れたらいいな

・⑨(今後の活動について）の指導がほしい！

・ふれあい喫茶、サロンの開催回数が多くなれば良い！

・老人会から子ども会まで各種団体の意見交換会を計画中

・次世代交流会(仮称)を計画中。曲里在住の若者(20代～45才)と都会に出て生活している曲里出身の若者と自治会主催でお盆の頃に交流会を行う。都会で暮らす人々が村の祭などあらゆる行事に気軽に帰って参加しやすい雰囲気をつくりたい。

・お互いの声掛け運動(家から少しでも外へ出る機会を増やす)

・高齢者の男性の交流会を増やす

・自治会役員で相談し、災害時のために助け合い名簿としてすべての住民の名簿を作成し、自治会長が管理することにしました。（全住民の同意を得て作成）40戸の集落ですが、名簿を作成したことで全体の様子を掴むことができましたので、これからは自治会の課題や困りごとを把握し、解決につなげていきたいです。

・今後、情報の共有が大事であり、福祉連絡会や民生委員、自治会等協議を深めていく必要がある。

・防災対策の強化

・ボランティアグループの設立

・介護施設へ入るための支援と協力

・認知症困っている家庭があるお手伝いすることができません。何か良い方法があればいいのだが。

・近所づきあいが大事。一人暮らし高齢者が多い中地域に根付いた仲の良い自治会を目指していきたい。

・秋の収穫祭、田畑の保全活動

・子どもたちの自治会行事に対する積極的な参加（野球やサッカーなどの活動で土日に出かける子どもが多く、自治会行事に参加できないなど傾向がある）

・現状、仕事を持ちながら役を持ち、細かなフォローが不足していると思う

・自治会を離れて都市部で生活している若い人たちが自治会内でふれあい場を設けたい

・活動資金、補助金の増額

・いきいき百歳体操を長く続けるためにも役員はもちろん市、社協のサポート強化をお願いしたい

・一夜だけの公民館ビアガーデン

・一人暮らしや高齢者が一段と増えているので、都会に出ている息子や娘と連絡を密にし、度々戻ってくるよう働きかけたい